

公益社団法人武蔵野法人会 会長賞

税と我

おおさわ学園三鷹市立第七中学校

三年 辻 壮佑

私の人生に、税は少し影響を与えてきます。この前もそうでした。母から千円札を渡されコンビニで飯を買ってこいといわれたある日の昼。商品の値札を見て、私の頭は混乱を起こします。わかりやすく太い字で記された値段の少し下に「税込み価格」と書かれた小さな数字が記されています。大迷惑です。困りました。それでも私はがんばりました。なんとか自力で計算して、これ以上ないという商品の組み合わせを見つけました。華やかな気持ちでレジに並び、会計ボタンに触れたとき信じられないことが起こりました。1円です。たった1円、オーバーしました。これは税のせいです。間違いなく税のせいです。

結局、この日の昼飯はたった1円の差によってサラダの種類が変わってしまいました。税金は時としてこの日のような悲しい結果を生んでしまうことがあります。しかし、長い目で見ると税金は、私の人生に良い影響をもたらしてくれるものだわかります。

始業式の朝、何気なく配布される教科書などの教材たち、12時35分になると何気なく配布されるごちそう、彼らは私の血となり、脳となり、骨となります。そしてこれらを支えているのは「税金」です。教科書や給食の他に、信号機などの道路整備も税金で行われています。これらは、己の身の安全のことなど考えず、危険な世界にダイブしようとする自分を、車などから守ってくれるとても大切なものです。

これらのことからいえるのは、私たちは何気ない日常の中で、知らず知らずのうちに税金に助けられているということです。ただし、忘れてはいけないことがあります。それは、税金を助けているのは私たちであるということ。なので、もしも税金が私たちに牙を剥くようなことがあったとしたら、「何してくれてんだあ」と、大声で叫んでもいいものだとは私は考えます。

終わりにになりますが、税金は、時に悲しい結果を生んでしまうことがあります。しかし長い目で見ると税金は何かと私たちの生活を助けてくれています。我々人間と税金、中々切っても切り離せない関係にあるので、人間と税金の歩みは今後も長く続いていくような気がします。その歩みの中で、税金に腹が立つことが多々あるかもしれません。そんな時、忘れたくないことは、我々人間のことを、彼らは意外と助け、支えてくれているということです。そんな彼らの働きを忘れてしまえば、税金は、ただの邪魔者になってしまいます。そんな未来、お互い望んでないはずです。税金と人間、互いに協力し合い、手をつないで共に歩める世の中になることを、信じましょう。